

ふれあい

2014年 春季号 vol.54

2014年(平成26年)4月30日発行

日本医療機能評価機構認定病院 医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院 広報誌
発行所/広報企画室 石川県野々市市郷町262-2
TEL: 076-246-5600 FAX: 076-246-3914 <http://www.nouge.net>



病院理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様により高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。

基本方針

1. 患者の皆様と人間性を尊重した温かい医療の提供に努めます。
2. 地域の医療機関と連携を行い、患者の皆様が安心と満足の得られる医療の提供に努めます。
3. 脳神経外科専門病院として、地域の救急医療の提供に努めます。
4. 急性期から回復期リハビリ、慢性期の一貫した医療を提供します。
5. 患者の皆様に対して、適切な言葉と態度を心がけるよう努めます。
6. 患者の皆様のご意見、ご希望を医療に反映させるよう努めます。

患者の皆様への権利

私達は患者の皆様への権利を尊重し、信頼に基づいた医療を行うため、患者の皆様への権利に関する宣言を掲げます。

1. 適切で最善の医療を公平に受ける権利
2. 検査や治療について真実を知り、十分な説明を受ける権利
3. 検査や治療を受ける権利と受けることを拒否する権利
4. プライバシーの秘密保持を得る権利
5. 病院や医師を自由に選択し、あるいは変更する権利

脳卒中の症状が疑われたら 迷わず直ぐに119番、脳卒中専門病院へ！



病院長
佐藤 秀次

治療を開始し、重症化を防ぐことが何よりも重要です。脳梗塞は心臓や動脈内にできた血栓(血の塊)が脳に運ばれ、脳の血流をストップさせたり、脳内を走る細い動脈が動脈硬化により詰まったりして起こります。

動脈が詰まると、時を経ずして脳細胞死が始まり、段階的により広い範囲へと拡大し、重症化します。これに対して、動脈を詰めた血栓を速やかに溶かし、血流を再開させて、脳細胞死の拡大を防ぐ画期的な治療が脳血栓溶解療法です。

この血栓を溶かし、脳細胞死を最小限に押さえる薬は脳梗塞が発症してから4時間30分以内に静脈投与されなければなりません。発症後、早ければ早いほど、良い結果が期待できます。

以前は脳出血が多いのが我が国の脳卒中の特徴でしたが、血圧の管理が進む一方で、高カロリー食、高タンパク食、高脂肪食などの食生活の変化や喫煙運動不足などのライフスタイルも加わり、脳梗塞が増加に転じており、現在では脳卒中の約60%を占めるようになってきています。(図2)脳梗塞が増えた他の原因として、人口の高齢化が深く関与していることも見逃せません。これからは脳梗塞を予防し、不幸にして脳梗塞になった際には速やかに治

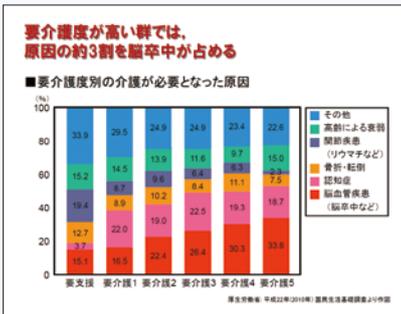
ところが、言葉がもつれたり、顔や手足がしびれたり、手の動きが悪くなった、歩きにくくなるという脳卒中の症状が始まっているにも関わらず、家でしばらく様子を見て、良くなるからと



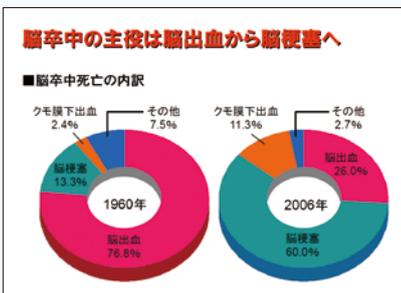
病院を受診される患者さんが後を絶ちません。これでは、脳梗塞の進行悪化を防ぐことはできません。

当院では、脳卒中を専門にする脳神経外科医が24時間365日病院に常駐して脳卒中の患者の治療に備えています。発症後4時間30分以内に血栓溶解療法を行う体勢を準備万端ぬかりなく整えています。また、救急隊との緊密な連携も不可欠であることから、救急隊とは定期的な勉強会、情報交換会を重ねています。

もし、家族や身近にいる人が突然、言葉の障害を起したり、手足の動きが悪くなったりした場合には、すぐに119番して「脳卒中が疑われるので直ぐに専門病院に運んでください」と救急隊に出動を要請してください。「たいそうな」とか「迷惑をかけるから」などの遠慮は禁物です。脳梗塞は一刻を競う一大事です。第1発見者の適切な行動が患者さんの運命を決めることになるのです。



(図1)



(図2)

医療と介護 の連携

地域医療福祉部
地域医療連携課

脳卒中になられた方が、地域で安心して質の高い生活を送ることができるよう、野々市市と白山市の介護サービスを紹介しています。

今回紹介するのは、『訪問リハビリテーション』についてです。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が、利用者さんの自宅を訪問し、指定された時間内に、心身の機能の維持回復、日常生活の自立を助けることを目的とするリハビリテーションを行います。

※介護保険の申請については、お住まいの地域の市役所にご相談ください。

野々市市役所（介護長寿課）

076-2227-6066

白山市役所（長寿介護課）

076-2274-9529

地域の事業所紹介

公立つるぎ病院 訪問リハビリテーション



（職員） 理学療法士1名、作業療法士4名、言語聴覚士1名
（利用者） 67名
（エリア） 美川から白峰まで白山市全域と近隣の市町を訪問しています。
（スタッフより） 訪問リハビリテーションでは、体を動かして機能訓練をするだけでなく、実際の生活場面に合わせたリハビリテーションの提供を行います。動作指導や自宅でできる運動メニューの作成から、福祉用具の選定や手すりの設置などの環境整備、家族には介助方法についての指導などを行っています。自宅で生活するという視点に立ち、利用者さんにとってどんなことが必要かを考え、一人ひとりに合ったリハビリテーションを提供しています。



（仕事に対する想い） 利用者さんの生活がよく見える位置で関わりがもてることは、訪問リハビリテーションの大きな魅力です。病院のリハビリテーションで得られた能力が、どこまでその後の生活に活かされているのかが重要だと感じています。病院で得た機能を最大限に活かすため、利用者さんの生活を知り、想いに耳を傾けることで、「したい」を「できる」に変える提案をしています。また自宅に訪問することで、家族の希望や家族と利用者さんの関係性などを知ることができます。家族がとても疲弊していたり、利用者さんと全く違う想いを抱いていることがあります。大事なものは、共に生活



する人全てが主役であり、家族を含めてどう支えていくかが大切になります。私達が黒子となり、必要時に傾聴し、励ましの言葉をかけることで、技術的な面だけでなく、精神的な部分のフォローも心掛けるようにしています。

私達は、今までの生活をどう取り戻していくのか、これからの生活をどう歩んでいくのか、そこで生活する方々に寄り添いながら支援していきたいと考えています。

今後の大きな夢として、訪問リハビリテーションを必要としている全ての人に、サービスが提供できるよう環境づくりを目指しています。サービスを必要としている人のところに、十分なサービスがまだ行き届いていなかったり、必要と思っている人や必要であろうとする人がいるかもしれません。どこかで待っている人がいるならば、常に私達が訪問するという気持ちで日々臨んでいます。



公立つるぎ病院

住所 石川県白山市鶴来水戸町ノ1番地

TEL 076-272-1250

月曜日～金曜日 8:30～17:15



平成26年度

入職式と新人研修

4月1日に、本年度の入職式が行われました。入職者は、医師1名、看護部20名、リハビリテーションセンター6名、医療福祉相談課1名、医療秘書課1名、医事課2名の計31名です。佐藤病院長からの式辞と新入職員代表による宣誓が行われました。

その後、1週間の新人研修において、当院の魅力と多職種によるチーム医療の重要性を学びました。病院にとっても地域にとっても貴重な人材である新入職員!! 今後は、緊張した笑顔が本当の笑顔に変わるよう在职スタッフでサポートしていきたいと思えます。



売店リニューアルオープン!!

当院の売店が、ヤマザキショップとして3月24日にリニューアルオープンしました。地域住民の方にも幅広く利用していただけるよう当院正面玄関からも入店可能となりました。

人気のデザート類や飲み物を中心に、口腔ケアグッズ・介護用品まで充実した品揃えとなっています。

多数の皆様のご来店をお待ちしております!!



ヤマザキショップ

金沢脳神経外科病院店

石川県野々市市郷町262-2

Tel. 076-246-5521

営業時間

月曜日～日曜日

8:30～17:30

(祝日定休日)

患者さんコーナー



能美市 畑本 秀之 様

私は、3年前頃より日増しに両側下肢が針で突く痛みと腰から下がしびれる障害に陥り、1年前頃より歩行困難で苦痛の日々でした。182センチの長身が、左肩を下げて腰を屈折させ痛々しく歩く姿に、ゴルフ仲間や親戚の人から、金沢脳神経外科病院佐藤院長に診察依頼することを勧められ、院長を訪ね診察をお願いしました。

診察の結果、症状を含め最新のMRI検査結果等から、腰椎変性すべり症と腰部脊柱管狭窄症にて2ヶ所の腰部の手術が必要との診断でした。以前に他病院で腰部の手術を経験し、手術後長時間の激痛が忘れられず、年齢70歳

も考慮し悩みましたが、パソコンでブログを検索したところ、MD法手術とは、従来の手術に比べて僅かな切開で行い、手術後の出血や切開による痛みも少なく、体に負担の少ない手術法と明記されており、迷わずお任せしました。

手術前には、院長、飯田脳神経外科部長から丁寧な説明を受けました。阿部麻酔科部長からは、全身麻酔や懸念していた手術後の痛みの緩和対策等についてお話がありました。おかげで気持ち楽になり、安心して9時間を超える手術を受けることができました。手術後院長が、「前回手術した部分の神経の癒着がひどく、切り離しに時間を要し、難易度の高い大変な手術でしたが、無事に終えました。」と説明してくださいました。前回の手術後と比べて痛みも緩和し、回復室も翌朝には退室するなど、前回に比べて3日間も短期間で個室に戻りました。

山口副院長より手術後のリハビリテーションについて、最初の3日間が最も大事だと安静を強調され、7日後からのリハビリテーション等の計画説明を受け、計画に



従って励みました。おかげで、経過は順調で当初の予定より大幅に早まりました。入院中は看護師をはじめ、多くのスタッフの皆様のおかげで、多岐にわたるご心配を頂戴しました。有難く心から深く感謝を申し上げます。

手術後3日目にベットから立ち上がり、トイレに向かい排便の際、今までの激痛が嘘のように無くなり、嬉しさのあまり涙し、家内に電話して喜びを分かち合いました。後日院長が病室を訪れ、手術後の経過を尋ねられ、私は激痛、苦痛から解放された喜びで思わず院長の胸に顔を埋め、嬉し涙で抱きつきました。院長はそんな私の肩を手で擦りながら、難易度の高い手術でしたが、想定外の回復に、院長も私以上に嬉しいと話されました。病室を去る際に、

「元気を取り戻されたので、今後は奥様と楽しい人生を過ごして下さい。」と温かいお言葉を頂戴し、涙が止まりませんでした。改めて、おまかせ願って運ばれた道に、人との出会いの大切さを痛感致しております。

退院後の元気な姿の私と接した友人達が揃って、「姿勢は基よくなりましたね。」と回復に驚嘆し、手術の成功を喜んでくれました。人間は苦痛から解放され、生きがいと夢を持つことにより、全てが明るくなることを痛感致しました。今後は、辛苦とともに歩んだ家内と人生の楽しみをゆつくりと見つけて、感謝の気持ちを感じず、体調に十分留意し歩んで参ります。

最後に、私のような症状に悩み、苦痛の日々を過ごされる人達に、少しでも勇氣と希望を与えられればと願っております。

